

# ぐんまの道づくり

平成18年度  
業績計画書  
(アウトカム・プラン)



群馬県道路協議会

## も く じ

- 1 . アウトカム・プランの策定について ..... 1
- 2 . 政策方針と成果指標の設定 ..... 2
- 3 . 成果指標による業績の評価 ..... 4
- 4 . 交通事故の削減 ..... 5
- 5 . 医療・福祉の向上 ..... 7
- 6 . 渋滞の解消 ..... 9
- 7 . 自転車走行空間の確保 ..... 12
- 8 . 産業・観光の振興 ..... 14
- 9 . 情報の公開 ..... 19

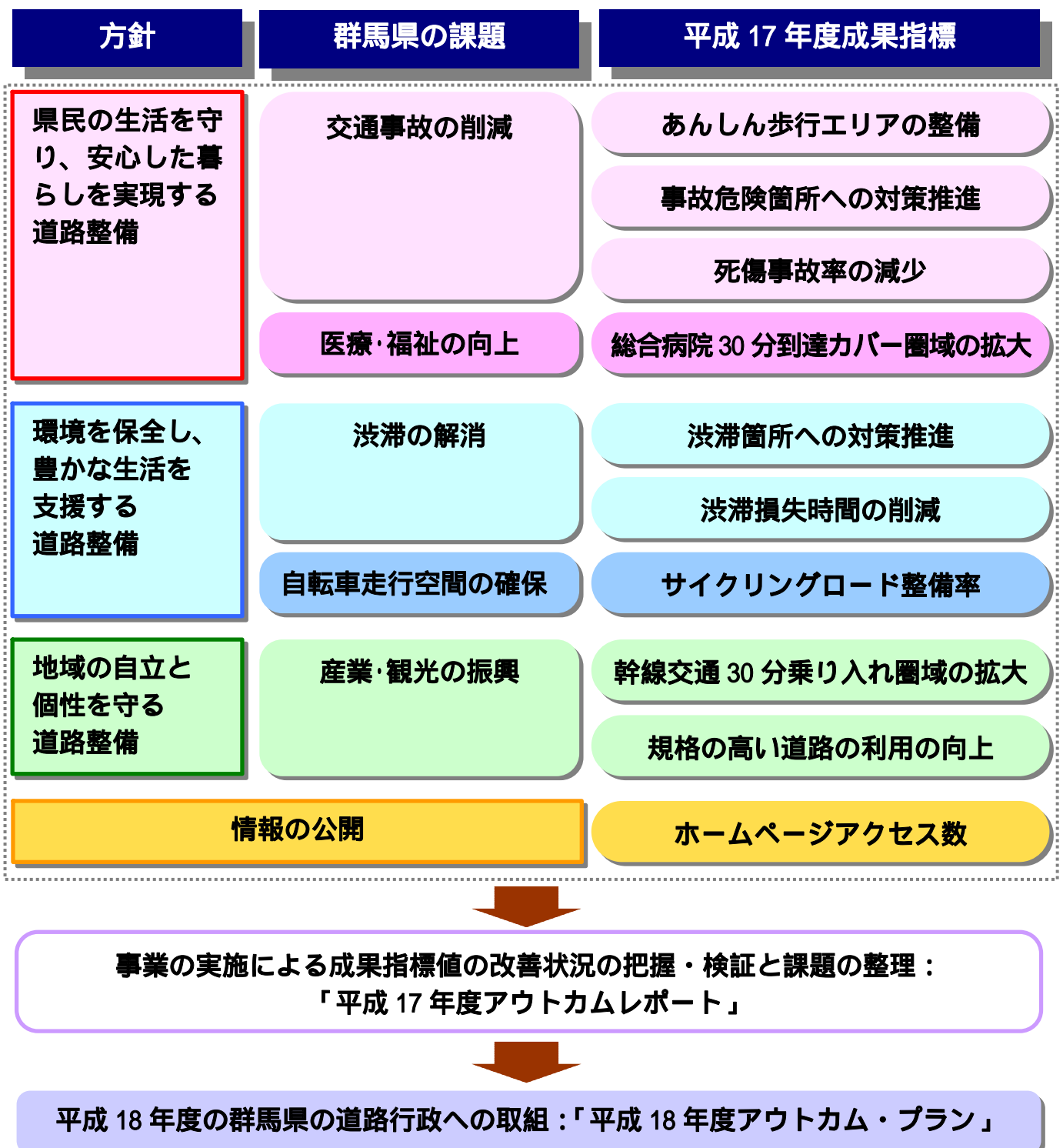


## 2. 政策方針と成果指標の設定

### 4つの方針と指標の選定

「平成17年度アウトカム・プラン」では、群馬県の道路行政が目指すべき成果を示す指標として、施策の特性に応じた10指標を設定し、4つの施策方針（政策課題）に応じて分類した上で、社会的背景（群馬県の課題など）や施策の必要性、平成17年度に実施される事業、及びそれに伴い改善が期待される指標の現況値・目標値を県民の皆様に提示しました。

平成18年度の道路行政の推進にあたっては、平成17年度アウトカム・レポートを踏まえ、目指す成果の数値目標達成に向けて事業に取り組んでいきます。



# 「達成度報告書」、「業績計画書」と「道路見える化計画」との連動

## 「道路見える化計画」とは



国や地方の財政が逼迫する中で、これからの行政は限られた予算で効率よくサービスを提供していかなければなりません。

そこで国土交通省では道路の課題をデータできちんと把握し、その最適な解決法を見だし、解決を急ぐべきところから対策を講じていくため、「道路見える化計画」を推進しています。

課題のデータや、それに基づいた解決策とその結果を利用者、納税者の皆さんに「見える化」し、効率的に道路行政を進めていくほか、今まで見えにくかった道路行政を、もっとわかりやすく「見える化」することも、もう一つの目的です。工事の実施の際にも、何のための工事が「見える化」していきます。

高崎河川国道事務所では、現在、「渋滞見える化プラン」や「交通安全見える化プラン」などの取組を始めています。

## 渋滞見える化プラン

「渋滞見える化プラン」では「渋滞箇所」「走りにくさ」「災害」「地形・気象」の4つの視点から問題箇所を抽出し、さらに道路利用者の皆様からの意見を基に、39箇所の渋滞箇所を設定しています。

## 交通安全見える化プラン

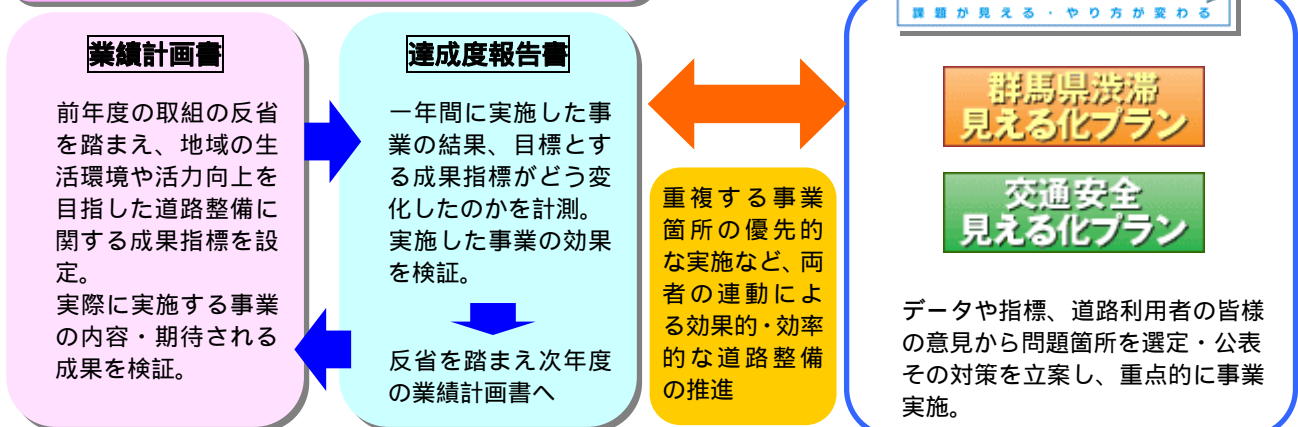
「交通安全見える化プラン」では、群馬県の交通事故特性を考慮して「死傷事故率」「死者率」「歩行者・自転車事故」「夜間事故」「子供の事故」「高齢者の事故」「横断者の事故」「安全性が危惧される箇所」から問題箇所を抽出し、渋滞と同様に道路利用者の皆様からのご意見を加味して、代表的な箇所34箇所を設定しています。

## 「達成度報告書」、「業績計画書」と「道路見える化計画」との連動

群馬県では、平成15年度より、道路を整備することによる地域の生活環境の向上を客観的な指標で評価し、その結果を次の道路整備計画につなげていくためのしくみを導入しています。道路整備による地域の生活環境向上や活力向上のための目標（指標）をあらかじめ設定し、実際の道路整備がその指標の向上にどのように寄与したかを点検・評価する「達成度報告書」と、前年度の達成度を基に、次年度の新たな目標を設定する「業績計画書」を策定し、「道路行政マネジメント」の確立を進めています。

今後は、「道路見える化計画」に基づいて、事業の優先順位を明確にしながら、効率的・効果的な整備を進め、地域の暮らしやすさや活力の向上に資する道路整備を推進します。

## ぐんまの道づくり「達成度報告書」「業績計画書」



### 3. 成果指標による業績の評価

群馬県が抱える地域課題に対して必要な対応策を実施するにあたって、どのような成果指標で数値化することが県民の皆様にとってわかりやすいかを考慮し、以下の成果指標を設定しました。

方針	課題	成果指標(単位)	対象路線・範囲	H17現況値	H18目標値	見える化計画との関連
県民の暮らしを守り、安心して暮らしを実現する道路整備	交通事故の削減	あんしん歩行エリアの整備(箇所)	直轄国道 一般国道 県道 市町村道	16箇所 (着手箇所14)	あんしん歩行エリアに指定された16箇所の整備により、平成19年までにエリア内の死傷事故件数の2割削減を目指す	交通安全見える化プラン
		歩行者及び自転車の安全な通行を確保する「あんしん歩行エリア」の整備とそれに伴う死傷事故の削減を成果とします。				
		事故危険箇所への対策推進(箇所)	直轄国道 一般国道 県道	174箇所	事故危険箇所に指定された174箇所への対策により、平成19年までに事故危険箇所内の死傷事故件数の3割削減を目指す	
	死傷事故が多発する「事故危険箇所」への対策推進とそれに伴う死傷事故の削減を成果とします。					
死傷事故率の減少(件/億台キロ)	高速道路 直轄国道 一般国道 県道	142.3件/億台km	死傷事故率の削減を目指す			
1万台の自動車が1万km走行した場合に発生する死傷事故数の減少を成果とします。						
医療福祉の向上	総合病院30分到達カバー圏域の拡大(%)	総合病院に30分以内に到達できるエリア(可住地面積に対する割合)の拡大を成果とします。	高速道路 直轄国道 一般国道 県道	83.6%	平成18年度には新たな供用開始路線がないため、平成17年度同様83.6%	
環境を保全し、豊かな生活を支援する道路整備	渋滞の解消	渋滞箇所への対策推進(箇所)	高速道路 直轄国道 一般国道 県道	対策事業 ・完了25箇所 ・一部完了20箇所 ・未整備15箇所	新たに ・完了2箇所 ・一部完了1箇所 ・追加へ向けた対策推進	渋滞見える化プラン
		渋滞箇所への対策を成果とします。				
	渋滞損失時間の削減(万時間/年)	高速道路 直轄国道 一般国道 県道	県内の総渋滞損失時間8,432.5万時間/年(H17年度対策により2.4万時間/年削減)	渋滞損失時間の削減を目指す		
渋滞によって失われてしまう時間の削減を成果とします。						
空間の確保	自転車走行	サイクリングロード整備率(%)	サイクリングロードネットワーク計画の対象路線	60.2%	平成18年度までに概ね完成	
地域の自立と個性を守る道路整備	産業観光の振興	幹線交通30分乗り入れ圏域の拡大(%)	高速道路 直轄国道 一般国道 県道	81.4%	上信自動車道や北関東自動車道およびインターチェンジのアクセス道路の整備により将来的には100%を目指す	
		新幹線駅または高速道路などのインターチェンジまで30分程度で到達可能な市町村数の増加を成果とします。				
		規格の高い道路の利用の向上(%)	高速道路 直轄国道 一般国道 県道	10.4%	北関東自動車道の整備促進により大幅な向上を目指す	
		目的地により早く、確実に到達できる規格の高い道路が利用される割合の向上を成果とします。				
情報の公開	情報の公開	ホームページアクセス数(件/年)	全国	735,753件/年	平成17年度の約20%増 約90万件/年	
		国土交通省高崎河川国道事務所、群馬県道路関係課のホームページアクセス数の増加を成果とします。				

## 4 . 交通事故の削減

### 指標1 あんしん歩行エリアの整備（箇所）

あんしん歩行エリアに指定された16箇所のうち、平成17年度までに事業に着手している12箇所に加え、平成18年度は残り2箇所でも事業に着手し、平成19年度までにあんしん歩行エリア内における死傷事故件数の2割削減をめざします。

平成17年度現況値：エリア内での死傷事故件数2割削減に向けて事業継続

平成18年度目標値：未着手の2箇所でも事業着手し、事業を継続

### 指標2 事故危険箇所への対策推進（箇所）

平成18年度は、事故危険箇所174箇所のうち、165箇所でも事業に着手し、147箇所の対策を完了、16箇所の対策を一部完了とし、平成19年度までに事故危険箇所での死傷事故件数の3割削減をめざします。

平成17年度現況値：指定を受けたエリアで継続的に事業を実施

平成18年度目標値：エリア内での死傷事故件数3割削減に向けて事業継続

### 指標3 死傷事故率の減少（件/億台km）

あんしん歩行エリアや事故危険箇所、高崎河川国道事務所が推進する「交通安全見える化プラン」の対象箇所など、事故の多発する地点で交通安全対策を重点的に実施し、死傷事故率の減少をめざします。

平成17年度現況値：142.3件/億台km

平成18年度目標値：事故率の削減を目指す

## 現状と課題

あんしん歩行エリアや事故危険箇所の整備は計画通りに進んでおり、今後もさらなる推進が求められます。

前年度に比べ、死傷事故率は減少したものの(145.6 142.3 件/億台km)、死者率及び致死率は増加しています(死者率：0.90 0.92 人/億台km、致死率：0.61 0.65 人/件)。これは大きな事故が増加していることを示しており、ハード面での整備の促進はもとより、ソフト面も含めた総合的な対策を実施することが必要となっています。

道路種別にみると、幹線道路と生活道路における死傷事故率は全国平均を上回る水準となっており(幹線道路：全国103.0,群馬県123.6 人/億台km、生活道路：全国204.7,群馬県230.1 人/億台km)、これらの道路での対策が急務となっています。

## 業績計画

あんしん歩行エリアの整備

生活道路における交通事故対策として、引き続きあんしん歩行エリアの整備を推進します。

今年度は、未着手であった2箇所の事業に着手し、着手率を100%とします。

また、既着手で整備の終わっていない7箇所についても引き続き、整備を進めます。

全箇所	着手予定箇所	予定着手率
16箇所	16箇所	100%

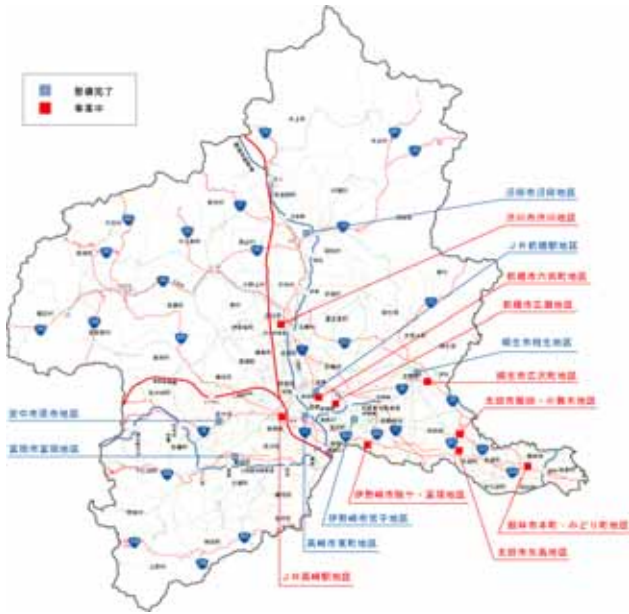
### 【あんしん歩行エリアの整備計画】

番号	地区名	備考	進捗
1	JR前橋駅(北口・南口)地区	歩道、コミュニティ道路の整備	完了
2	前橋市広瀬地区	歩道、コミュニティ道路の整備	事業中
3	前橋市六供町地区	歩道、コミュニティ道路の整備	事業中
4	JR高崎駅(東口・西口)地区	歩道、駐輪施設の整備	事業中
5	高崎市東町地区	通学路、バリアフリー整備	完了
6	渋川市渋川地区	通学路、バリアフリー整備	事業中
7	富岡市富岡地区	歩道整備、電線類地中化	完了
8	安中市原市地区	幹線道路の対策	完了
9	沼田市沼田地区	歩道、コミュニティ道路の整備	完了
10	伊勢崎市宮子地区	歩道の段差・勾配の解消	完了
11	伊勢崎市除ヶ・富塚地区	歩道の段差・勾配の解消	事業中
12	太田市飯田・小舞木地区	歩道、コミュニティ道路の整備	事業中
13	太田市矢島地区	歩道、コミュニティ道路の整備	事業中
14	桐生市相生地区	歩道、コミュニティ道路の整備	完了
15	桐生市広沢町地区	歩道、コミュニティ道路の整備	事業中
16	館林市本町・緑町地区	歩道整備、電線類地中化	事業中

■：平成17年度以前の事業着手箇所

■：平成18年度の事業着手予定箇所

【あんしん歩行エリアの着手予定箇所】



【あんしん歩行エリアの整備予定箇所】  
館林市本町・緑町地区(主)前橋館林線

事故危険箇所の整備

幹線道路や生活道路の交通事故対策として、事故危険箇所において、交差点の改良、右折車線や道路照明の設置、道路標識や歩道の整備など、面的かつ総合的な死傷事故対策を講じています。

今年度は、未着手箇所9箇所着手し、着手箇所を全174箇所中165箇所とするほか、148箇所事業を完了、15箇所では一部完了とする予定です。

【事故危険箇所の整備計画】

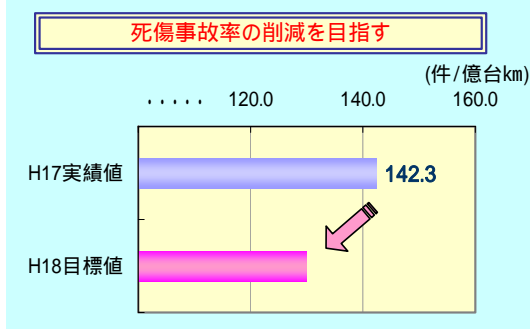
	対象箇所数			着手箇所			一部完了箇所			完了箇所			構成比(%)		
	計	単路	交差点	計	単路	交差点	計	単路	交差点	計	単路	交差点	着手	一部完	完了
国の管理区間	27	11	16	27	11	16	3	3	0	22	8	14	100.0	11.1	81.5
都道府県・政令市の管理区間	147	60	87	138	58	80	12	7	5	126	51	75	93.9	8.2	85.7
全体	174	71	103	165	69	96	15	10	5	148	59	89	94.8	8.6	85.1

交通事故死傷率

引き続き、あんしん歩行エリアや事故危険箇所など、事故の多発する地点で交通安全対策を重点的に進め、死傷事故率減少を目指します。

高崎河川国道事務所が推進する交通安全見える化プランの対象箇所については、国道17号元総社町交差点や上津大原交差点など、34箇所中、5箇所事業が完了する予定です。

【目標の設定】



【事故危険箇所の整備予定箇所】

上：(主)藤岡本庄線 市役所前交差点(藤岡市)  
下：(一)長久保郷原線 安中市原市(安中市)





## 5. 医療・福祉の向上

### 指標4 総合病院30分到達カバー圏域の拡大(%)

総合病院に30分以内で到達できるエリア(可住地面積に対する割合)を拡大を目指し、事業の早急な推進を図ります。

平成17年度現況値：83.6%

平成18年度目標値：カバー圏域の拡大を目指し事業を継続

#### 現状と課題

平成17年度は(主)中之条湯河原線で事業が完了し、2.05kmの道路が新たに供用開始となり、総合病院30分カバー圏域は83.4%から83.6%へと拡大されました。

今後もカバー圏域のさらなる拡大を目指し、中山間地域を中心とした未達成エリアにおける道路整備を推進することが求められます。

#### 業績計画

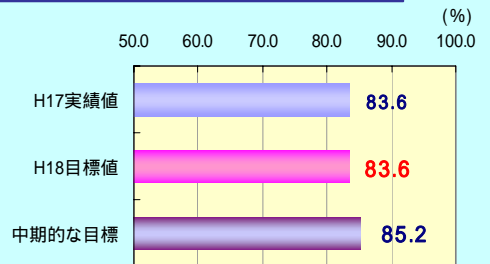
平成18年度は新たな供用開始区間の予定がないため、圏域の拡大はない見込みですが、圏域拡大に資する3路線の整備を推進し、早期の拡大を目指します。

##### 【圏域拡大に資する主な事業】

路線名	事業の内容	対象市町村
(一)苗ヶ島飯土井線	新規路線の整備(前橋市)	前橋市・桐生市
(一)林長野原線	バイパス整備(長野原町)	長野原町・東吾妻町
(一)林東吾妻線	バイパス整備(長野原町～東吾妻町)	長野原町・東吾妻町

##### 【目標の設定】

到達カバー圏域の拡大を目指し、事業



##### 【総合病院30分到達カバー圏域】

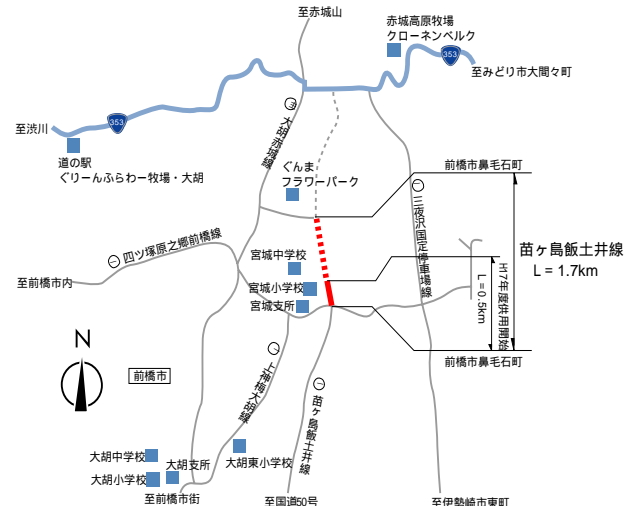


#### カバー圏域を拡大する主な事業(1)

##### (1) (一)苗ヶ島飯土井線

箇所名	前橋市鼻毛石町
延長	1.7km
幅員	6.0(16.0)m
区分	第3種第3級(2車線)
設計速度	50km/h

苗ヶ島飯土井線は、赤城南面地域と上武道路及び国道50号を結ぶ拠点開発支援道路「赤城南面中央道」と位置づけられており、地域観光振興への寄与が期待されます。



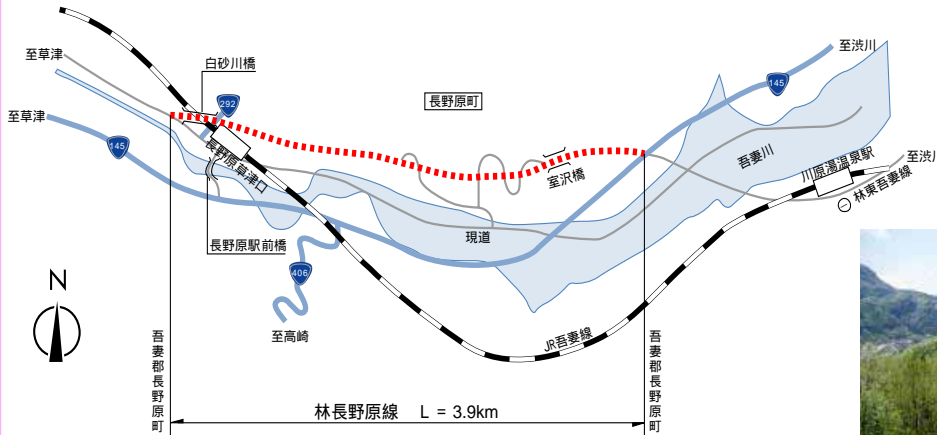
## カバー圏域を拡大する主な事業（２）

### （２）（一）林長野原線

区間	自：長野原町林 至：長野原町長野原
延長	3.9km
幅員	6.0(13.5)m
区分	第3種第3級(2車線)
設計速度	40km/h

林長野原線は、八ッ場ダム建設に伴う水没者の代替地である「林地区」および「長野原地区」を相互に結び、生活再建や地域振興を担う重要な路線です。また、この路線が、国道145号八ッ場バイパス・一般県道林東吾妻線と接続することにより、代替地全体の道路網が形成されます。

平成18年度は新たな用地取得を図るほか、改良工事、橋梁工事を進めます。



【整備状況】

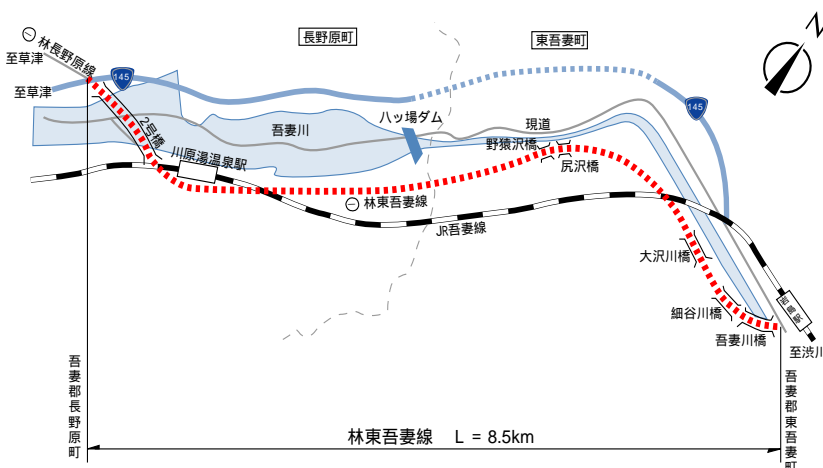


### （３）（一）林東吾妻線

区間	自：長野原町林 至：東吾妻町岩下
延長	8.5km
幅員	6.0m(13.5m)
区分	第3種第3級(2車線)
設計速度	40km/h

本路線は、八ッ場ダム建設に伴う吾妻川右岸の付け替え道路として計画され、長野原の「地域居住計画」に基づき、ダム建設による水没者の生活再建の場となる代替地「林地区」「川原湯地区」「三島地区」を相互に結ぶ生活道路として整備を行っています。

平成18年度は新たな用地取得を図るほか、改良工事、橋梁工事を進めます。



【整備状況】



## 6 . 渋滞の解消

### 指標 5 渋滞箇所への対策推進（箇所）

(都)新前橋駅川曲線4車化及び太田駅周辺東武鉄道連続立体の推進により、藤阿久交差点、小相木交差点、東本町十字路交差点で渋滞の解消・軽減を目指します。

平成17年度現況値：完了25箇所、一部完了20箇所、未整備15箇所

平成18年度目標値：新たに、完了2箇所、一部完了1箇所へ向けた対策推進

### 指標 6 渋滞損失時間の削減（万時間/年）

小相木交差点、藤阿久交差点及び東本町十字路交差点の整備により、県内の総渋滞損失時間8,432.5万時間/年の削減を目指します。

平成17年度現況値：県内の総渋滞損失時間8,432.5万時間/年

(H17年度の対策により渋滞損失2.4万時間を削減)

平成18年度目標値：渋滞損失時間の削減を目指す。

### 現状と課題

県内60箇所の主要渋滞箇所のうち、平成17年度までに対策事業完了が25箇所、一部完了が20箇所となっており、対策事業が未実施の交差点は15箇所となっています。

県内の総渋滞損失時間は、平成17年度中の3箇所の整備完了により、8,432.5万時間となっていますが、都市部の幹線道路を中心に発生する渋滞の解消に向け、さらなる対策の実施が求められます。

高崎河川国道事務所では平成17年度より、新たな交通状況を踏まえた「渋滞見える化プラン」として39箇所の渋滞箇所を新たに選定し、渋滞の解消を目指した取組を展開しています。

### 業績計画

平成18年度は、未対応交差点のうち、(都)新前橋駅川曲線4車化及び太田駅周辺東武鉄道連続立体事業が完了する予定となっており、小相木交差点(前橋市)、東本町十字路交差点(太田市)での渋滞が解消もしくは軽減されるものと期待されます。

県内の総渋滞損失時間8,432.5万時間/年からの削減を目指します。

	H14末	H15末	H16末	H17末	H18予定
対策事業完了	18箇所	20箇所	22箇所	25箇所	27箇所
対策事業一部完了	21箇所	20箇所	21箇所	20箇所	20箇所
未整備箇所	21箇所	20箇所	17箇所	15箇所	13箇所

#### 【平成18年度末の完了・一部完了予定交差点】

番号	主要渋滞ポイント	道路名	対策事業
28	藤阿久交差点	(主)前橋館林線	(主)太田大間々線整備, 太田駅周辺東武鉄道連続立体
42	小相木交差点	(主)前橋長瀬線	(都)新前橋駅川曲線4車化
49	東本町十字路交差点	(国)407号	(一)太田大泉線バイパス整備(東毛幹線(大泉工区)), 太田駅周辺東武鉄道連続立体

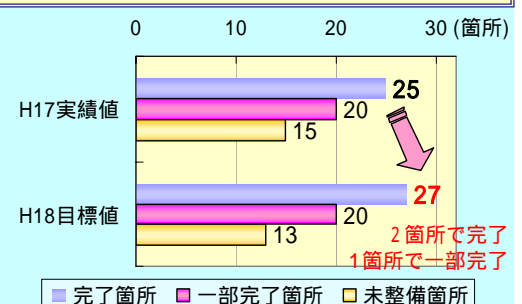
■：平成18年度に完了予定の事業

■：平成18年度に一部完了予定の事業

#### 【渋滞箇所への対策推進の達成状況】

##### 【目標の設定】

2箇所で完了、1箇所の一部完了に向け対策推進



## 平成 18 年度供用予定事業

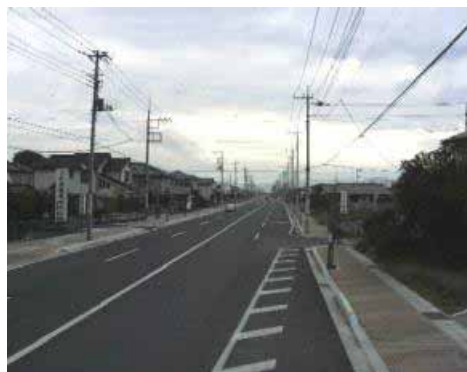
### ( 1 ) 小相木交差点 (( 都 ) 新前橋駅川曲線 4 車化)

事業箇所	前橋市古市町～川曲町
期 間	平成14年度～平成18年度
供用延長	1,040m
幅 員	24m

新前橋駅川曲線は、前橋市と高崎市との交流を促す幹線道路で、交通渋滞の解消、歩行者の安全確保、地域の活性化を図ることを目的として整備を進めています。

現在、 期・ 期工事を推進しており、平成 18 年度中には供用開始予定となっています。

#### 【整備状況】



### ( 2 ) 東本町十字路交差点 (太田駅周辺東武鉄道連続立体)

事業主体	群馬県
事業期間	平成8年度～平成18年度
事業延長	6,300m
踏切除却数	17箇所 (伊勢崎線8、小泉線3、桐生線6)
立体交差化される道路数	32路線 (伊勢崎線17、小泉線5、桐生線10)

太田市の駅周辺の中心市街地を鉄道が「たすき」状に走っているため、踏切による交通渋滞が甚だしく踏切事故による危険性も高く、市街地が鉄道で分断されることにより、都市としての一体的な効率ある市街地形成が阻害されています。

このような状況を抜本的に解消するために、平成 8 年度から群馬県、太田市及び東武鉄道では太田駅付近の鉄道を連続立体交差事業により高架化を図り、平成 11 年には小泉線の高架化、平成 16 年には伊勢崎線及び桐生線についても 11 月 25 日から高架供用されました。

現在は平成 18 年度の事業完成に向け、バリアフリー化した安全で快適な駅舎の築造、上りホームの増設及び国道 407 号の 4 車線化を推進しています。



#### 【現在】

#### 【高架前の一日の踏切遮断時間と最大渋滞延長】

鉄道名 (踏切名)	該当道路	踏切遮断時間	最大渋滞長
東武伊勢崎線 (桐生線7号)	(主)前橋館林線	約1.4時間	220m
東武伊勢崎線 (伊勢崎線403号)	市道九合85号線	約2.9時間	100m
東武伊勢崎線 (桐生線5号)	(一)小島太田線	約1.4時間	120m

# 渋滞見える化プランでも対象となっている渋滞箇所での取り組み

## (1) 国道 17 号高松立体(高松交差点・若松交差点)



区 間	自:高崎市宮元町 至:高崎市常盤町
延 長	1.6km
区 分	第3種1級
設 計 速 度	80km/h
都市計画決定	平成12年4月

最長 1,900mと県内ワーストの最大渋滞長を記録したこともある高松交差点と、その南の若松交差点の渋滞対策として、国道 17 号と(主)藤木高崎線とを立体化する高松立体の整備を進めています。本事業は、交差点の慢性的な渋滞の解消を図るとともに、河川整備及び烏川緑地整備と一体的に整備を進めています。



本事業は、平成 12 年度より工事に着手し烏川護岸工事や和田橋拡幅工事、切回し道路整備など順次事業を行ってきました。平成 19 年度末の完成を目指し、平成 18 年度は本線立体部の工事を推進します。

### 【完成予想】



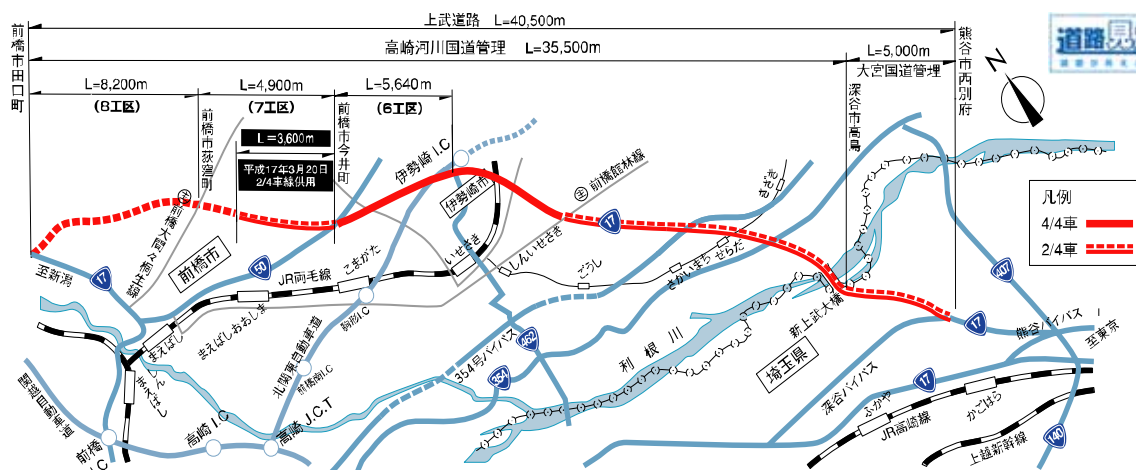
## (2) 国道 17 号上武道路(群馬大橋,表町一丁目,千代田三丁目,本町二丁目,今井町,三ツ木,三俣町の各交差点)

区 間	自:埼玉県熊谷市西別府 至:群馬県前橋市田口町
延 長	40.5km
区 分	第3種第1級
設 計 速 度	80km/h
都市計画決定	1)昭和46年3月 2)昭和58年4月 3)昭和61年8月 4)平成元年2月

国道 17 号上武道路は、東京～前橋の都市間連結道路として現国道 17 号とその周辺道路の渋滞解消と、地域の活性化を図るために計画された延長 40.5 kmの大規模バイパスです。

平成 4 年 2 月に埼玉県境の新上武大橋の完成により国道 50 号までが供用開始。また、平成 12 年 3 月には東武伊勢崎線～国道 354 号バイパスまでの 2.2 kmの尾島・境立体及び北関東自動車道伊勢崎 IC の前後区間 5.2 kmを供用しました。

国道 50 号以北については、残り延長 13.1 kmのうち前橋市江木町までの 3.6 km区間を、平成 17 年 3 月に暫定供用しました。平成 18 年度は、亀泉高架橋上部工事や改良工事を推進します。



# 7. 自転車走行空間の確保

## 指標7 サイクリングロード整備率(%)

サイクリングロード整備率を向上させ、平成18年度までに「サイクリングロードネットワーク計画」の概成を目指します。

平成17年度現況値：1,496.2km中、901.1km整備（整備率60.2%）

平成18年度目標値：平成18年度の「サイクリングネットワーク計画」概成に向けて事業を継続

### 現況と課題

平成17年末時点で整備率は60.2%であり、当初目標である平成18年度の概成を目指し、急ピッチでの事業推進を行う必要があります。

自転車が利用しやすい環境整備だけでなく、意識啓発などソフト面での対応についても充実を図り、自転車の利用を総合的に促進し、「自転車王国ぐんま」の実現を強力に推進することが求められています。

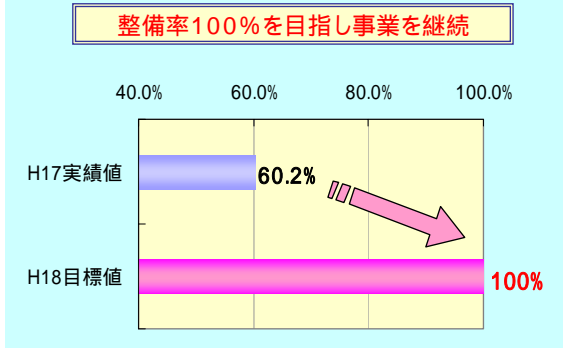
### 業績計画

平成18年度は、国道17号、18号、50号、(主)前橋玉村線、(主)桐生伊勢崎線などで段差の解消等を進めるほか、自転車専用道路である利根川自転車道線の整備を進め、未整備区間595.1kmの早急な整備を目指します。

【平成18年度に実施予定の主な事業】

路線名	箇所	工事概要
国道17号	藤岡市立石	歩道のセミフラット化工事
国道17号	前橋市表町	歩道再整備(電線共同溝整備)
国道17号	渋川市中村～阿久津	段差解消などの歩道整備
国道17号	沼田市下川田町～硯田町	段差解消などの歩道整備
国道18号	高崎市下豊岡町～上豊岡町	段差解消などの歩道整備
国道18号	安中市原市～郷原	歩道のセミフラット化工事
国道18号	安中市安中地先	歩道再整備(電線共同溝整備)
国道50号	桐生市広沢町(L=1800m)	段差解消などの歩道整備
国道50号	前橋市朝日町2丁目地先	電線共同溝による歩道復旧
(主)前橋玉村線	前橋市南町・六供町	歩道再整備(電線共同溝整備)
(主)桐生伊勢崎線	桐生市錦町	歩道再整備(電線共同溝整備)
(一)後賀山名停車場線	吉井町岩崎	歩道再整備
(一)利根川自転車道線	前橋市下石倉町	自転車道整備
(一)利根川自転車道線	玉村町下之宮	自転車道整備
(一)利根川自転車道線	渋川市阿久津	自転車道整備

【目標の設定】



【整備事例(一)由良深谷線】



【整備事例(一)石倉前橋停車場線】

## 自転車利用の促進に向けたソフト面での取り組み

群馬県では、自転車の利用を促進するため「サイクリングロードネットワーク計画」を策定し、平成 12 年度以降、自転車走行環境の整備、公共交通機関との連携を図るための自転車駐車場の整備、自転車利用者のための木製案内標識の設置など、よりよい自転車環境の創設を図っています。

また、ソフト面での自転車利用促進に向けた取り組みとして、毎年「ぐんまサイクリングフェア」を開催しているほか、サイクリングロードマップの作成、県ホームページにおける情報提供等を行っています。

住民参画としては、県民のボランティアからなる「サイクルツアー応援隊」を募集、平成 17 年 4 月から活動を開始しています。平成 17 年度はサイクリングロードの改善提案、利根川及び江戸川沿線市町村やサイクリング協会に対する「自転車キャラバン」での群馬県での取り組み等の PR 活動、サイクリングロードの案内板の作成設置等を行っており、平成 18 年度は「サイクリングフェア」の開催やサイクリングコース情報冊子の作成、自転車利用の魅力等のホームページでの情報発信等の活動を予定しています。

### ぐんまサイクリングフェア 2006

目的：「自転車の魅力・楽しさ」「自転車を使うと、便利に楽しく街中を走ることができること」「自転車がものすごく自由な気分にならせてくれること」などを知ってもらい、もう一度思い出してもらい、もっと生活に自転車を取り入れたり、自転車通勤に変えてもらえるように、広く県民の方々に情報発信することを目的とします。

テーマ：『じぶんのちから。みんなのちから。』

開催日時：平成 18 年 10 月 7 日（土）

集合場所：伊勢崎市いせさき市民のもり公園

内容：

サイクルスタンプラリー

いせさき歴史巡りサイクリングコース 約 12 km 約 1 時間 50 分

リバーサイドサイクリングコース 約 18 km 約 1 時間 50 分

島村渡船コース 約 20 km 約 2 時間

おもしろ自転車試乗

FM 公開生放送（FM ぐんま公開生放送）

各種自転車展示・試乗

お楽しみ抽選会（協賛各社からの商品を抽選でプレゼント）



### サイクリングツアー応援隊

自転車利用の楽しさや自動車から自転車に転換することの意義等をさまざまな活動を通じて情報発信することを目的として県が募集したボランティアで、約 50 名が活動しています。

平成 18 年度の活動内容

- ・「ぐんまサイクリングフェア」の企画・実施
- ・サイクリングロードと周辺の見どころを組み合わせたコース検討と情報冊子の作成
- ・自転車の魅力や自転車利用の意義をホームページで情報発信
- ・「自転車でディズニーへ」「自転車で群馬へ」の実現方策の検討と実施
- ・サイクリングロードの案内看板の作成
- ・その他「自転車王国ぐんま」実現方策の検討と実施



【「自転車キャラバン隊」として活動するサイクルツアー応援隊】

## 8 . 産業・観光の振興

### 指標 8 幹線交通 30 分乗り入れ圏域の拡大 (%)

上信自動車道や北関東自動車道および高速道路インターチェンジへのアクセス道路の整備により、将来的には100%の達成をめざします。

平成17年度現況値：81.4%<sup>(注)</sup>

将来的な目標値：100% (すべての市町村が30分圏域に)

平成18年度目標値：幹線交通30分乗り入れ圏域の拡大を目指し事業を継続

(注)当該指標は平成17年度業績計画書では平成16年度実績値を81.2%としていますが、以前から群馬県が設定している目標との整合を図るため、平成15年3月末現在の70市町村を基準として設定しています。

### 指標 9 規格の高い道路の利用の向上 (%)

北関東自動車道の全線供用により長距離を走行する交通を規格の高い道路に分担させ、高速道路と地域の幹線道路の適切な機能配分の実現を目指します。

平成17年度現況値：10.4%

平成17年度目標値：規格の高い道路の利用率向上を目指し事業を継続

将来的な目標値：大幅な向上

## 現況と課題

幹線交通 30 分乗り入れ圏域の拡大については、平成 15 年度以降、関連する道路で新たに供用開始したものがないため、81.4%のままとなっています。圏域拡大のためには、新幹線駅や既存のインターチェンジへのアクセス道路の整備と北関東自動車道の伊勢崎インターチェンジ以東の区間や上信自動車道の整備が不可欠であることから、これらを推進する必要があります。

規格の高い道路の利用率については、平成 16 年度に比べ、わずかながら上昇しています。今後も利用率向上のため、北関東自動車道や上信自動車道の整備を促進するなど、高速道路等が利用しやすい環境整備を進める必要があります。

## 業績計画

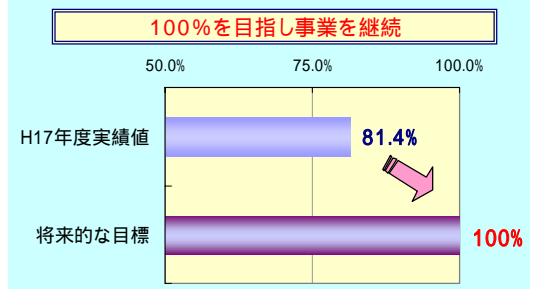
平成 18 年度は、北関東自動車道や上信自動車道の整備を進めるほか、国道 120 号椎坂バイパス、(主)前橋長瀬線、(一)大原境三ツ木線等の整備を進め、幹線交通 30 分乗り入れ圏域の拡大と規格の高い道路の利用率向上を目指します。

### 【平成 18 年度に実施予定の主な対策事業】

道路名	事業の内容	「幹線交通乗り入れ30分構想」が新たに達成可能となる市町村
北関東自動車道	伊勢崎IC以東への延伸	桐生市、太田市、大泉町 (北関東自動車道(仮)太田IC)
上信自動車道	整備促進	東吾妻町(旧吾妻町地区)、長野原町、嬬恋村、草津町、六合村(上信自動車道)
国道120号	椎坂バイパス整備(沼田市)	片品村(関越自動車道 沼田IC)
(主)前橋長瀬線	バイパス整備(藤岡市)	神流町(旧万場町地区、旧中里村地区) (上信自動車道 藤岡IC)
(一)大原境三ツ木線	現道拡幅(太田市)	みどり市(旧東村地区)、桐生市(旧黒保根村地区) (北関東自動車道(仮)藪塚IC)

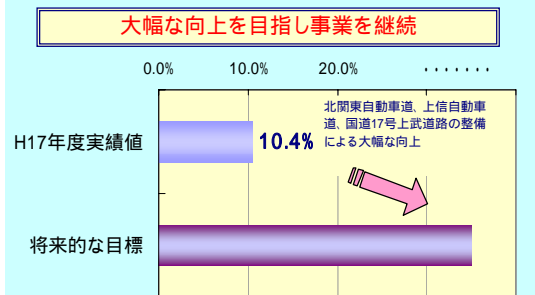
### 【幹線交通 30 分圏拡大の目標設定】

【目標の設定】



### 【規格の高い道路の利用率向上の目標設定】

【目標の設定】





# 産業・観光の振興に向けた取り組み

## (1) 北関東自動車道

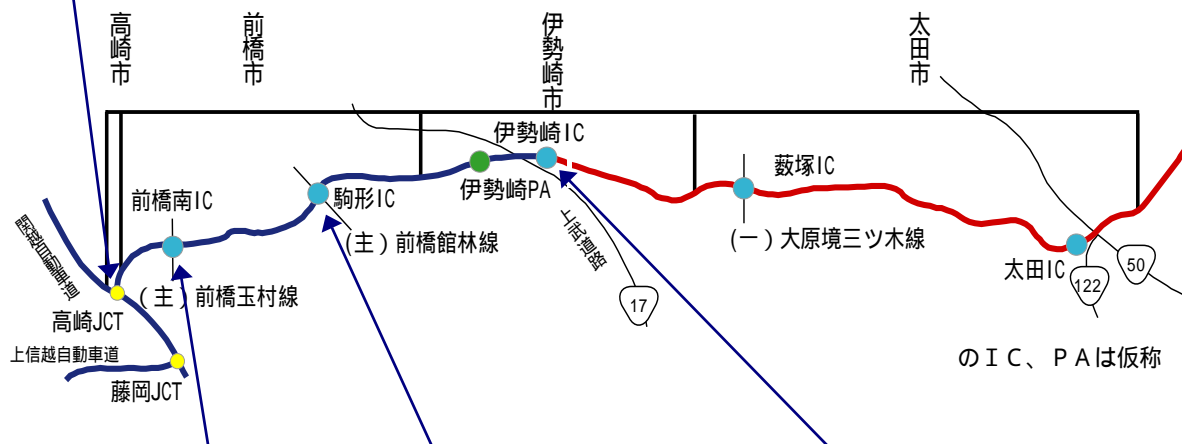
計画区間	群馬県高崎市(関越自動車道)～茨城県ひたちなか市(国道245号)
延長	約150km
構造規格	第1種第2級・自動車専用道路
設計速度	100km/h
車線数	4車線

北関東自動車道は、東日本高速道路(株)(旧日本道路公団)が整備を進めている延長約150km(群馬県高崎市～茨城県ひたちなか市)の高速自動車国道であり、群馬県・栃木県・茨城県3県の主要都市及び北関東地区の海への玄関口となる常陸那珂港を結びます。また、東京から放射状にのびる関越自動車道、東北自動車道及び常磐自動車道と連結して、高速ネットワークを強化し、さらに上信越自動車道・中部横断自動車道と一体になって、東京から100～150km圏を環状に結ぶ「関東環状道路」を形成する高速道路です。

群馬県内の区間32.7kmについては、高崎JCTから伊勢崎ICまでの14.5kmが平成13年3月31日に開通しており、伊勢崎IC～(仮)太田IC間が平成20年9月30日、(仮)太田IC～栃木県境までは平成24年3月31日の完成予定となっています。

平成17年度末現在、用地取得状況は約99%、埋蔵文化財発掘調査についても約99%が完了しています。また、県内の工事発注率(延長比)は約92%となっています。

北関東自動車道(仮)太田ICが整備されることで、桐生市、太田市、大泉町が幹線交通30分乗り入れ圏域となります。

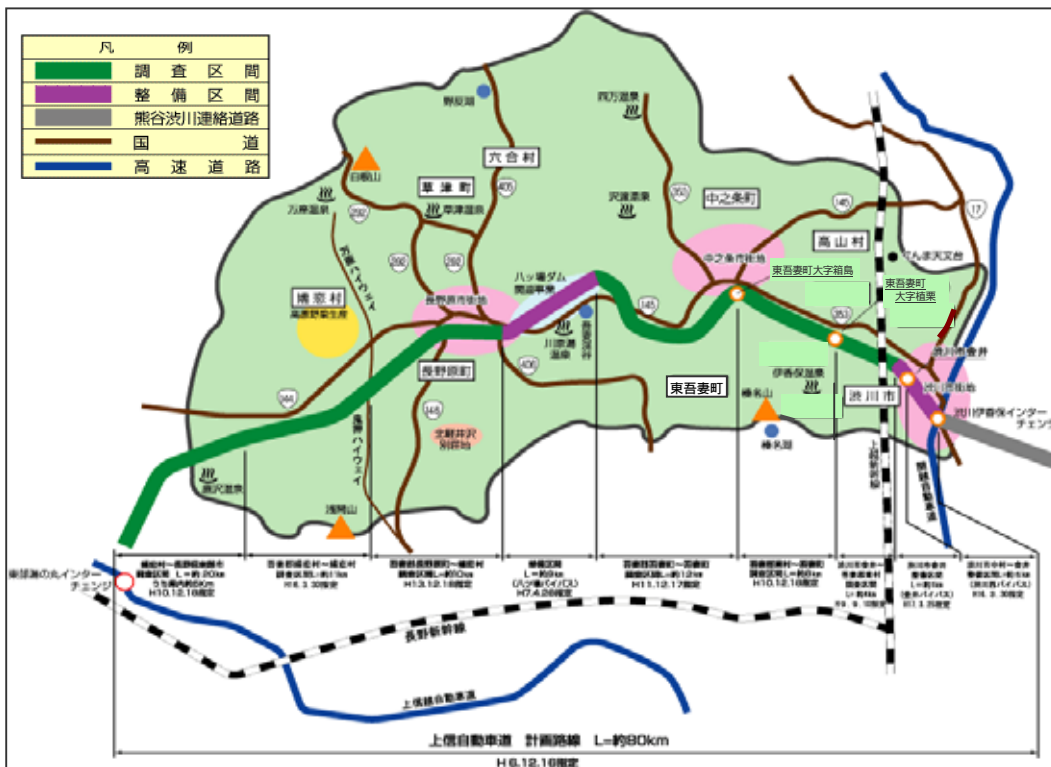


(2) 上信自動車道

上信自動車道は、渋川市の関越自動車道・渋川伊香保 IC 付近から東吾妻町、長野原町、嬬恋村を經由して長野県東御市の上信越自動車道・東部湯の丸 IC 付近に至る延長約 80 km の地域高規格道路です。

本道路の整備により、東吾妻町、長野原町、嬬恋村、草津町、六合村が「幹線交通乗り入れ 30 分」を達成します。

現在、国道 145 号ハッ場バイパスを上信自動車道の一部として整備しているほか、国道 17 号渋川西バイパス、国道 353 号金井バイパスについても上信自動車道の一部として一体的に整備する計画となっています。

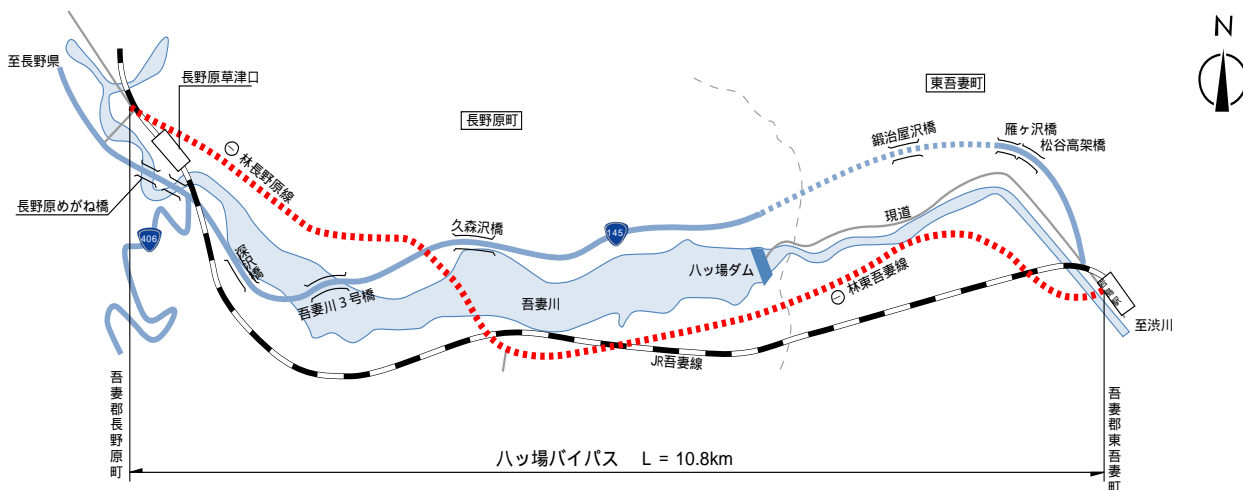


国道 145 ハッ場バイパス

区 間	自:長野原町長野原 至:東吾妻町松谷
延 長	10.8km
幅 員	14.0m (25.0m)
区 分	第3種第1級(4車線)
設 計 速 度	80km/h (一部区間60km/h)

ハッ場バイパスは、ハッ場ダム建設に伴う一般国道 145 号の付け替え区間として、ダム事業と協調しながら整備しています。

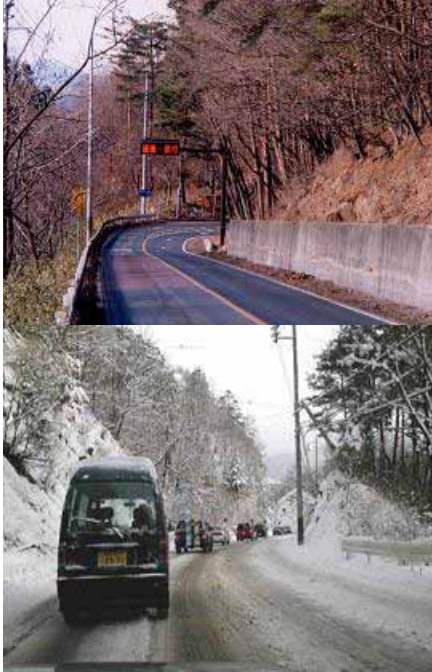
平成 17 年度まで用地取得率 44%、工事進捗率 45%となっています。平成 17 年度は、トンネル工事、橋梁工事、用地買収を進め、平成 18 年度末までに用地取得率 45%、工事進捗率 50% とすることを目標としています。



(3) 国道 120 号椎坂バイパス

区 間	自:沼田市利根町大原 至:沼田市白沢町生枝
延 長	4.2km
幅 員	6.5m(10.25m)
区 分	第3種第2級(2車線)
設 計 速 度	50km/h

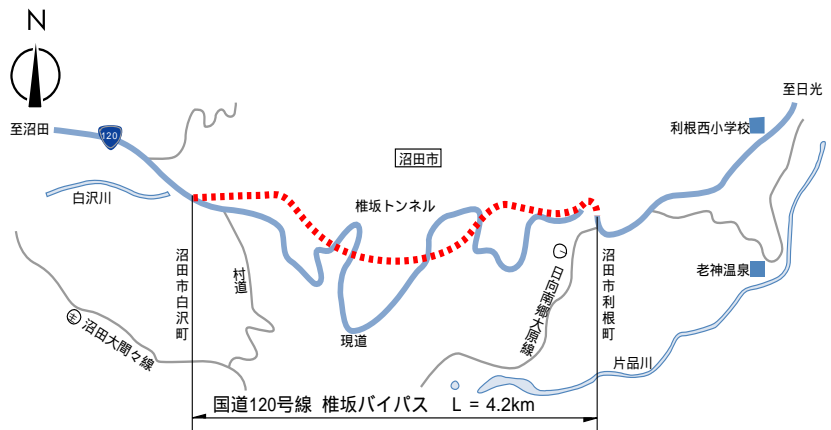
【現在の状況】



国道 120 号は、一般国道 17 号から関越自動車道沼田インターチェンジを経て、片品・尾瀬・日光方面を結ぶ観光ルートです。しかし椎坂峠は、山道特有の急カーブが連続し、特に冬期は積雪や凍結の多い難所であり、これらを解消するため、椎坂トンネルを含む椎坂バイパスの整備を進めています。

この事業により、片品村が関越自動車道の IC まで 30 分程度で到達することが可能となります。

平成 17 年度まで用地取得率 0%、工事進捗率 4%となっています。平成 18 年度は、設計、調査、用地買収を進め、18 年度末までに用地取得率 21%、工事進捗率 5%を目指します。



(4)(主) 前橋長瀬線

区 間	自:藤岡鮎川 至:藤岡市上大塚(2期工区)
延 長	1.6km
幅 員	13.5(25.0)m
区 分	第3種第2級 (4車線、暫定2車線)
設 計 速 度	60km/h

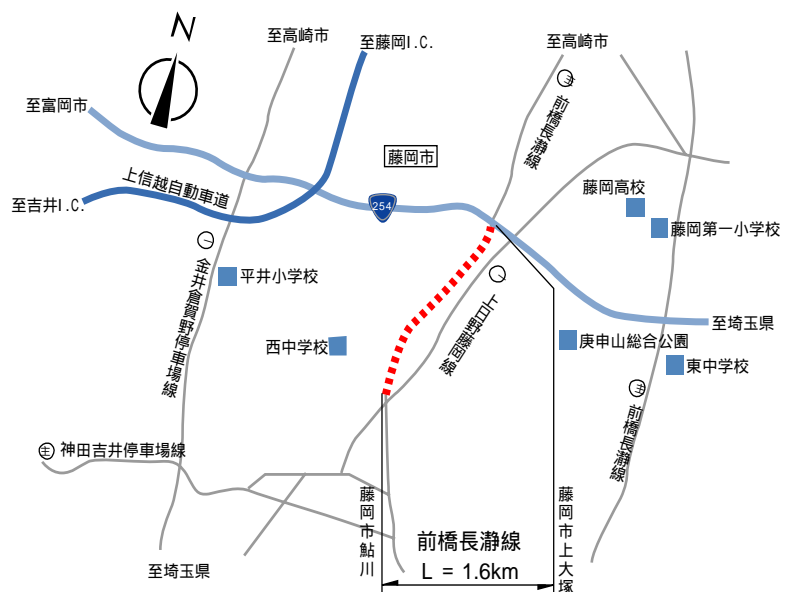
平成 17 年度まで用地取得率 100%、工事進捗率 35%となっています。平成 18 年度は舗装工事を進め、工事進捗率を 46%にすることを目指します。

【整備状況】



(主)前橋長瀬線は、前橋市から高崎市、藤岡市等を経由して埼玉県長瀬町に至る都市間連絡道路です。

近年、藤岡市街地において慢性的に発生している交通渋滞の解消と交通の円滑化を図ることおよび、(国)462号を整備することにより、神流町の旧万場町及び旧中里村が上信越自動車道の藤岡 IC まで 30 分程度で到達することが可能となります。



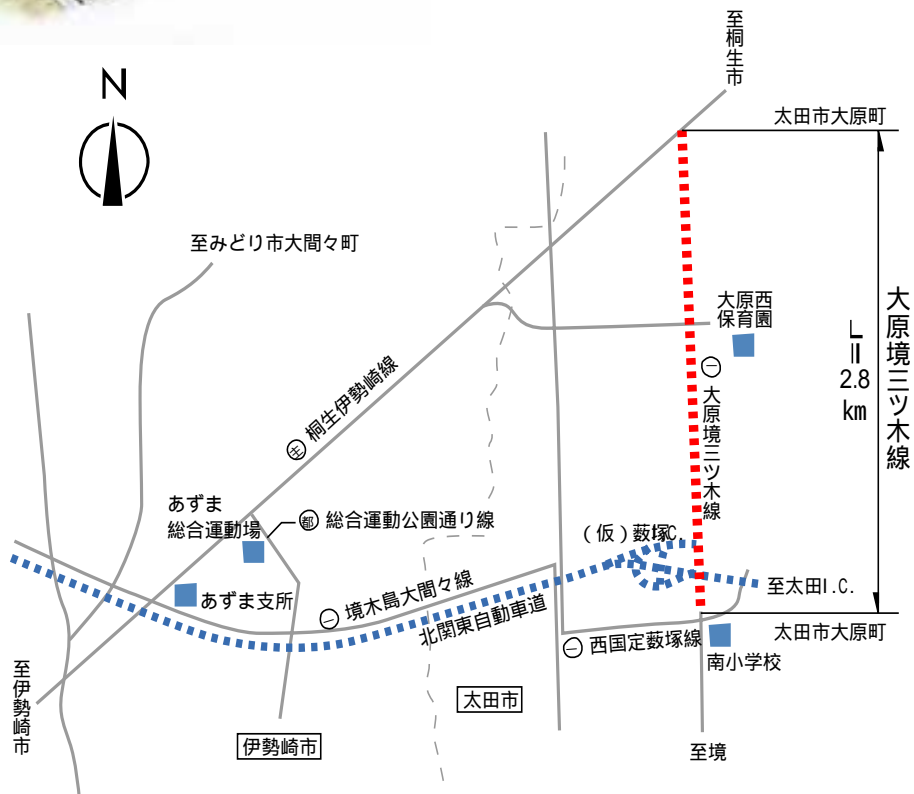
(5)(一) 大原境三ツ木線

区 間	太田市大原町
延 長	2.8km
幅 員	13.0m(35.0m)
区 分	第3種第2級(暫定2車線)
設 計 速 度	60km/h

【整備状況】



【(仮称)藪塚 IC 周辺の整備イメージ】



本事業箇所は、北関東自動車道(仮称)藪塚 IC のアクセス道路として、藪塚 IC の南側交差点から(主)桐生伊勢崎線までの間の L=2.8 km を整備するものです。

この整備のほか、(国)122号等を整備することにより、みどり市東町および桐生市黒保根町から(仮)藪塚 IC まで 30 分程度で到達することが可能となります。

平成 17 年度末で用地取得率は 93%、工事進捗率は 43%となっています。平成 18 年度は平成 19 年度末の供用開始を目指し、用地取得、改良工事、舗装工事等を行い、年度末までに工事進捗率を 62%とすることを目標とします。

## 9 . 情報の公開

### 指標 10 ホームページアクセス数

国土交通省高崎河川国道事務所と群馬県道路関係課（県土整備局道路企画管理課、道路整備課）のホームページのアクセス数を90万件/年とすることを目指します。

平成17年度現況値：735,753件/年

平成18年度目標値：平成17年度の約20%増加（約90万件/年）

#### 現況と課題

国土交通省高崎河川国道事務所及び群馬県の道路関係課のホームページアクセス数は、トップページのリニューアル等の効果もあり、平成16年度の約51万件から72万件へと45%の増加となりましたが、全国での順位は9位から12位へと後退しています。

今後も、群馬県民ならびに群馬県の道路利用者の情報ニーズを的確に把握し、それらをわかりやすく提示したホームページづくりを進めることで、さらなるアクセスの増加を目指す必要があります。

#### 業績計画

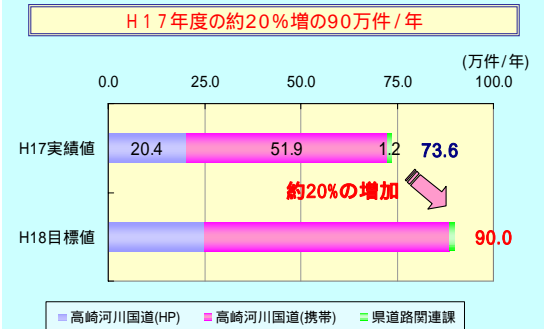
平成18年度は、これまで多くのアクセスを得て好評いただいているライブカメラのリニューアルを図るほか、こども向けページに「道のヒミツ2」を掲載するなど、利用者のニーズに応じた多様な情報提供の充実を図ります。

また、平成19年3月には、高崎河川国道事務所ホームページの全面リニューアルも計画しており、年間のアクセス数は、平成17年度に比べ20%程度多い、90万件を目指します。

#### 【群馬県道路関係課のHP「ぐんまの道づくり」】



#### 【目標の設定】



#### 【高崎河川国道事務所のホームページ】



【平成18年度に新たに高崎河川国道事務所HPに追加された「道のヒミツ2」】